

詩編 第71編 20節

「あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、合わせなさいましたが、私を再び生き返らせ、地の深みから、再び私を引き上げてくださいます。」

近くの川端を散歩する。住宅街の間を通り吹く風と異なり、季節ごとの特徴が感じられる。街中の風よりはさらに勢いよく吹いている。寒風吹きすさぶなかの散歩は、風の勢いに抵抗しながら歩くことになる。顔に吹きつける風をまともに受けて歩く。そして今の季節の風は寒風の上に、ほのかな温もりを感じさせる空気が続いているようだ。やがて季節は冬から春へと向かうのは確かであるが、その兆しがすでに感じられる。

厳しい風のなかでも暖かな季節への期待のせいで風に温もりを感じてしまうのか。それとも実際、寒風の下に温もりの空気が続いているのか、確かめる間もなく風は過ぎ去る。

川端を歩くと様々な風が吹きつける。その風が散歩する者の足腰を強くする。厳しく陰しい風もあれば、爽やかで温もりのある風の日もある。すべての風を受けて歩む者の人生を豊かなものとする。この風に会わせてくださるお方がいる。そのお方が歩む者を再び歩ませてくださる。そのお方が歩む者を引き上げてくださる。風に会わなければ見えないあなたのところへと。

2022年1月25日